

六 桓武天皇陵見張所の電灯線引込み工事箇所の立会調査

桓武天皇陵は伏見城址の域内にあたる。この陵の見張所に電灯線を引込むのに、電柱2本を立てて架線し、その延長を地下ケーブルとして埋設するため、昭和五十一年三月十一日、工事に立会った。木立の中でのしかも狭い範囲の調査であったので、土相の識別と性格付けが難しく、特に遺構として明確なものは検出されなかった。

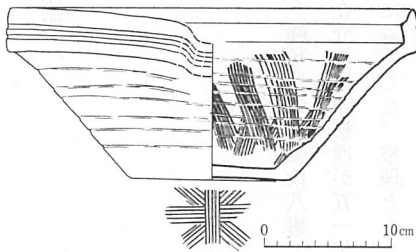
腐植土の表層の下には、砂礫を含む黄味あるいは赤味を帯び粘質土が続いている。G'では、地山の砂礫層が露出していた。A'の上から四枚目の層には陶器片・鉄片が検出され、五枚目が地山のようにも見受けられた。D'では上から3枚目の層に一個体分のスリ鉢の破片が出土したが、落込みらしいものを認めることができなかった。

10cm

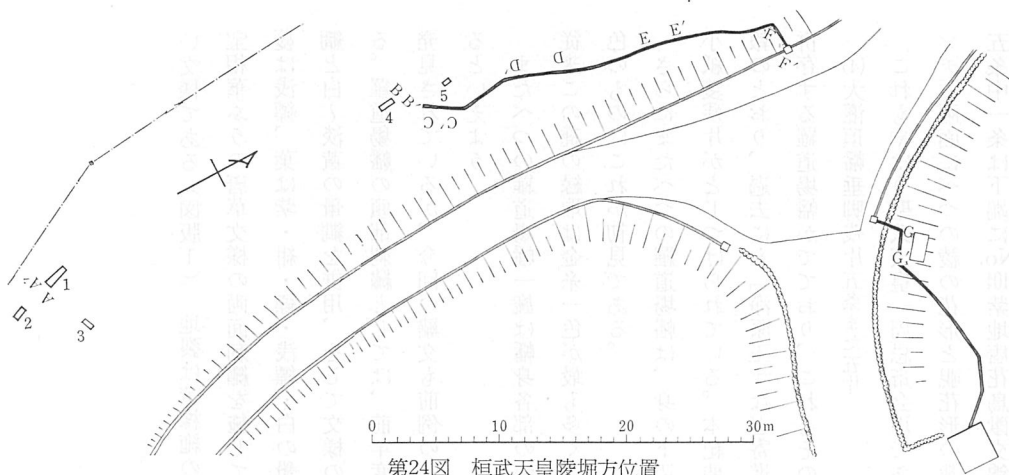
上品 (1/6)

出土品は、炆器・陶器・鉄片にすぎない。第23図は、D、D'出土の近世備前焼きの典型的なスリ鉢である。

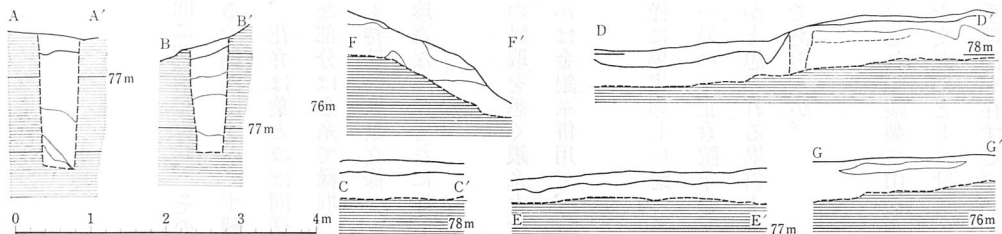
(笠野 毅)



第23図 桓武天皇陵出土品 (1/6)



第24图 桓武天皇陵堀方位置



第25図 桓武天皇陵堀方断面 (1/100)